



千代田

広報

特集

平成16年 (2004年) 3/31

(毎月5日・20日に発行)

代表電話 3264-2111



▲江戸天下祭「山車・神輿順行」

発行/千代田区 編集/(財)千代田区コミュニティ振興公社・政策経営部広報広聴課



江戸開府400年 記念事業

400th ANNIVERSARY OF THE EDO SHOGUNATE

平成15年の1年間にわたり区内各所で実施された「記念事業」の結果について、実行委員会が主催した事業を中心にお知らせします。

閉塞感を吹き飛ばすきっかけとして



千代田区江戸開府400年記念事業 実行委員会会長 石原 信雄

江戸に幕府が開かれてから400年という記念すべき年を平成15年(2003年)に迎えるにあたり、江戸城が築かれ江戸の中心であった千代田区で記念事業を実施しようという呼び掛けに、千代田区に関係を有するさまざまな人が賛同し、実行委員会を設立しました。

1年以上に及んだ検討期間の中では、「千代田区の中だけにとどまらず、全国に向けて発信できる事業にしよう」、「日本全体を覆っている閉塞感を吹き飛ばす事業にしよう」という意気込みで検討を積み重ね、記念事業は実行委員会が主催する10事業を核として、さまざまな実施主体が参加できる構成を築きました。



千代田区長 千代田区江戸開府400年記念事業 実行委員会名誉会長 石川 雅己

記念事業の成果を未来につなげる

江戸開府400年記念事業を大盛況のもとに実施できましたことを、心から感謝申し上げます。

今回の記念事業は、江戸・東京が400年間にわたって蓄積してきた歴史や文化を振り返るとともに、新たな文化や未来を切り拓く活力を創造することを目的として、実施することといたしました。また、江戸・東京と全国・世界との交流の歴史を振り返り、新たな交流を築いていくことも重要な目的の一つでありました。

準備期間を含めた2年半余の期間を振り返りますと、千代田区の記念事業への取り組みに呼応するかのようになり、全国的に「江戸ブーム」が巻き起こりました。出版やマスコットの世界はもとより、まちの中でも古地

こうして迎えた平成15年、年間を通じてさまざまな事業が展開され、大変多くの方々に参加・観覧いただくことができました。特に、シンボル事業として11月に実施した「江戸天下祭」は、約77万人の来場者をお迎えして記念事業全体の山場となり、全国各地で大きな話題を呼び起しました。

今回の記念事業が、千代田区、東京の、そして全国の発展のきっかけになれば、主催者としてこの上ない喜びであります。

最後に、江戸開府400年記念事業の実施に際しまして一方ならぬご支援・ご協力を賜りました皆様方に、心から厚く御礼申し上げます。

図を片手に歩き回る人の姿が数多く見受けられました。

また、「江戸天下祭」の山車・神輿順行は、千代田区発の新しい文化ともなり得る盛り上がりを感じることができましたし、順行に参加した団体間に交流が芽生えるなど、新たなコミュニティが形成されました。さらに、実行委員会支援事業としてさまざまなグループによる自主的な活動も活発に展開され、記念事業を通じて、区の内外でさまざまな文化や交流の息吹が聞こえてきています。

シンボルマーク

このマークは、千代田区の「千」と400年の「4」を一体化させながら、区の花「桜」を入れ込み、地球を思わせる立体的な色使いによりグローバル性を強調しています。

江戸開府400年
400th ANNIVERSARY OF THE EDO SHOGUNATE

事業全体の概要

事業名称: 江戸開府400年記念事業
開催期間: 平成15年1月～12月を基本とする
主催: 千代田区江戸開府400年記念事業実行委員会
後援: 国土交通省、環境省、文化庁、首都高速道路公団、千代田区ほか
オフィシャルスポンサー: 三菱地所(株)、三井不動産(株)、JR東日本、東京電力(株)
実施場所: 千代田区を中心としたエリア
事業規模: 約9億6千万円(物品協賛等を含む)
※千代田区事業、地域事業、共催・後援事業を除く
総実施事業数: 132事業
総参加者数: 約630万人(右表参照)

江戸開府400年記念事業参加者数 (単位:人)

実行委員会事業	1,453,434
桜座(SAKURA)	2,367
東京シティロードレース2003	6,076
NHKお江戸笑会in千代田	2,763
ちよだシティアート2003	50,500
江戸文化体験塾	4,422
江戸天下祭	774,000
メトロポリタン・シンポジウム	214
東洋文庫名品展	22,815
江戸・東京ミュージアムネットワーク	590,277
実行委員会支援事業	4,600
千代田区事業	803,500
地域事業	1,160,300
共催・後援事業	2,868,000
合計	6,289,834

共催・後援事業

「東京ミレナリオ」など39事業に対して共催・後援の

連合町会単位で行われた「地域コミュニティ活性化事業」をはじめ、商店街、文化団体などの千代田区内の各団体で21事業を実施し、

約116万人の参加者を得ました。各団体では、江戸開府400年記念にふさわしい内容充実を図り、事業を展開しました。

名義を付与し、約87万人の参加者を得ました。

千代田区事業

平成15年の1年間に「江戸開府400年夢事業」など18事業を実施し、約80万人の参加者を得ました。事業内容は歴史や文化のみにとどまらず、観光、商業、福祉、スポーツ、健康など、さまざまな領域の施策の中で、千代田区が事業を行いました。

実行委員会支援事業

「文化の担い手は、そこに住み、働き、学び、集う人びとである」との認識のもと、さまざまなグループが自主的に計画している事業を実行委員会が募集したところ、83団体から応募がありました。審査の結果、イベント開催を中心に事業を実施する「一般部門」24団体、街づくりのための調査・研究を中心とした活動する「まちおこし部門」20団体の計44団体に対して支援を行いました。

支援を受けた団体は、幅広いジャンルの事業をさまざまな手法で展開して大きな成果を上げ、記念事業全体に広がり厚みをもたらしてくれました。

実行委員会事業

オープニング事業として開催した「桜座(SAKURA)」をかわきりに「東洋文庫名品展」まで、記念事業全体の核となる10事業を3つのテーマに分けて実施しました。

春から夏、夏から秋、そして冬へと四季に応じて趣向を変え、話題性を持たせることで、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど、多くのメディアにとりあげられました。

その結果、参加者・観客数は、当初目標とした100万人を大きく上回る約150万人に達し、事業への参加を通じて新たな交流が図られたことに加え、千代田区の江戸開府400年記念事業を全国に発信することができました。



▲374名のソパリエが誕生した「江戸ソパリエ認定事業記念シンポジウム」

歴史・文化の体験・発掘事業

江戸文化体験塾

8月29日から11月6日までの約2か月間にわたり、立川流家元立川談志師匠をスーパーバイザーに迎え、「江戸文化を知って、育み、伝えよう」をテーマに、「江戸文化体験塾」を区内各所で計52回開催しました。

オープニングプログラムとして開催したシンポジウム・特別講演や鑑賞・体験プログラム、落語会を通じて、4,422名の参加者は江戸の優れた生活文化や芸能文化を体験しました。この体験が、新たな文化を創造し、千代田区の活性化につながることを期待されます。



▲鑑賞プログラム「粋にあそぶ・四季にあそぶ」(9月12日、一ツ橋ホール)



▲オープニングプログラム「大江戸世話談義」(8月29日、千代田区公会堂)



▲体験プログラム「江戸の舞踊」(10月18日、麴町区民館)



▲「コメディお江戸でござる」(8月14日、国立劇場)

NHKお江戸笑会in千代田

7月4日開催の「NHK東西浪曲大会」から8月25日開催のNHK公開セミナー「大河ドラマ・武蔵」までのNHKが制作・放送する5つの番組を区内各所で公開録音(音)イベントとして、延べ2,763名の観客を迎えて実施しました。

NHKとの共催により実施したことで、全国ネットで記念事業が紹介され、秋の事業の集客につなげることができました。



▲「NHK講演大会」(7月5日、イノホール)



▲「高島おひさ」(喜多川歌麿)

▲「解体新書」(杉田玄白等訳)

江戸文化保存「大江戸透絵図」

7月30日、千代田の歴史や文化を後世に伝えることを目的に「大江戸透絵図～千代田から江戸が見える～」を出版しました。

当初4,000部を区内のみで販売しましたが、好評につき1万部に増刷して全国販売し、千代田の歴史や文化を全国に発信することができました。



▲「江戸・東京重ね地図」(付録CD-ROM)



▲「第1部：今に生きる江戸文化400年」より

東洋文庫名品展

12月23日から平成16年1月12日の期間で、丸ビルホールを会場に財団法人東洋文庫が所蔵する江戸に関する資料80点を展示した東洋文庫名品展を実施しました。

展示品のうち、56点は北斎、歌麿、写楽などの浮世絵で、いずれも色鮮やかで稀少な名品を揃えました。また、東方見聞録や解体新書など、なかなか目にするのできない資料を展示したことで、延べ22,815名もの来場者で賑わいました。

江戸・東京ミュージアムネットワーク

平成15年の1年間、区内の各ミュージアムや江戸東京博物館など26施設をネットワーク化して、より多くの方々に歴史や文化に触れてもらうことを目的に、江戸・東京ミュージアムネットワークを実施しました。

実行委員会からの要請により、各施設で江戸開府400年関連の特別展や入場料割引、記念グッズのプレゼントを実施したり、実行委員会で共通パ

ンフレットの配付および新聞広告を行ったことで、延べ59万名の入場者を記録しました。江戸・東京ミュージアムネットワークを実施したことで、千代田区に存在する数多くの素晴らしい文化施設を周知することができました。本事業を通じて築いたネットワークは、今後区が文化芸術振興施策を進めていくうえで、大きな力となる可能性を秘めています。

シンボル事業

江戸天下祭

11月22日から24日の3日間、日比谷公園と丸の内周辺を会場に、「江戸フェスティバル」、「江戸登城ウォーク」、「全国街道交流会議・お江戸寄合」、「大学対抗イベント inちよだ・お江戸〜ん」、そして、このイベントのハイライト「山車・神輿順行」の5つの事業を集中させ、記念事業の中でも最も発信力の強い事業として、江戸天下祭を開催しました。

「山車・神輿順行」には、約30万人もの観客が沿道に詰めかけ、百数十年振りに復活した天下祭に酔いしれました。総来場者数は延べ77万4千名を数え、全国に発信できる「千代田の新しい祭」としての期待が膨らみました。

また、「江戸登城ウォーク」、「全国街道交流会議・お江戸寄合」による全国との交流や「大学対抗イベント inちよだ・お江戸〜ん」による学生と住民や在勤者との交流は、これからの活力ある千代田区を創出するための大きな原動力になっていくものと期待されます。



▲「山車・神輿順行」(24日、日比谷公園～皇居前)



▲「大学対抗イベント inちよだ・お江戸〜ん」(23日、日比谷公会堂)



▲「江戸フェスティバル」(22日～24日、日比谷公園)



▲「全国街道交流会議・お江戸寄合」(22日、日比谷公会堂)



▲順行の付祭「千代田区民踊流し踊り」



▲「江戸登城ウォーク」(22日、20コース)



▲「夜の山車曳き回し」(22・23日、日比谷公園)



▲「山車・山車人形・神輿展示」(17～24日、丸ビル)

桜座(SAKURA)

江戸開府400年記念事業のオープニングイベントとして、桜座(SAKURA)を3月29日に日比谷公園野外大音楽堂で実施しました。

平和と国際交流をテーマとし、出会いによる新しい文化の創造と発信をコンセプトとした国内外の音楽・舞踏アーティストの共演や、一般公募参加者による大田楽の踊りなどの熱意あふれるパフォーマンスは、2,367名の観客を魅了しました。



▲大型投影機による舞台演出



▲「大田楽」



▲オレグ・リャーベツ(ロシア)

新しい千代田の創出・交流事業

東京シティロードレース2003

5月18日、日比谷公園から国立競技場までの10kmのコースで、一般ランナーと障害者、臓器移植者が一緒に走る東京シティロードレース2003を江戸開府400年記念大会として実施しました。

当日は、ゲストランナーに谷川真理選手と高橋尚子選手を迎え、江戸風の沿道応援などで趣向を凝らした中、5,468名が完走しました。

交通量の多い都心をコースにしたロードレースを開催することは、さまざまな方々の理解と協力が無くては実施できませんが、障害者部門を設けた数少ないこのレースが今後も大きく発展していくことを期待します。



▲日比谷通りを埋めつくすランナー



▲「セッション2：都市文化の創造に向けて」

メトロポリタン・シンポジウム

12月6日、丸ビルホールを会場に、江戸開府400年記念事業を総括し、都市の未来を探ることを目的にメトロポリタン・シンポジウムを開催しました。

当日は、214名の来場者を迎え、パネリストからハード・ソフトの両面で、未来の都市のあり方や千代田区の文化創造についての意見が交わされました。

パネリストからの貴重な意見は、理想的な未来都市を目指す千代田の都市文化創造の可能性を感じさせてくれました。

ちよだシティアート2003

8月21日から25日の5日間、飯田橋「アイガーデンエア」を舞台に実施しました。環境と平和と交流をテーマに、アートディレクターに堀木エリ子氏を迎え、環境に優しい自然素材で制作したアートによる「芸術の空間」と、かっぽれ踊りや大道芸等の「賑わいの空間」を演出したイベントに約5万名の観客が訪れました。

新しく生まれ変わったこの地域の文化創出と交流が、今後も継続して行われていくことを期待します。



▲「こだまの森」

実行委員会支援事業



▲審査会の様子（まちおこし部門）



▲「聞香を楽しむ」（一般部門）

「一般部門」は、1月から平成16年3月までさまざまな催しが24のグループにより実施されました。

「まちおこし部門」は20グループにより、千代田区の活性化につながるまちづくり活動の調査・研究が行われ、その成果が6月14日開催の中間発表会および11月29日開催の活動成果発表会の場で披露されました。

こうした自主的な活動を支援していく仕組みは、継続していくことが重要であることから、「まちおこし部門」は、(財)千代田区街づくり推進公社がこれまで行ってきた「千代田まちづくりサポート」として、活動を継続しています。また、「一般部門」については(財)千代田区コミュニティ振興公社が平成16年度も継続実施していきます。

事業総括

● 広報活動

広報活動は、春と秋の2回のタイミングで新聞広告や交通広告などを集中的に実施しました。

また、公式ホームページ「江戸net」は、平成15年12月末までの1年半の間に、約515万件のアクセスがあり、広報媒体としての威力を十二分に発揮しました。

● 実行委員会の収支決算状況

当初、記念事業を計画化するにあたり、実行委員会の事業規模を10億円、その財源構成は、千代田区拠出金が5億円、協賛金と事業実施に伴う諸収入が5億円と想定しました。

最終的に実行委員会の現金ベースでの収支決算は、約7億6千万円となり、若干の残余金が生じました。収入額の内訳は、千代田区拠出金が5億円、協賛金が約2億2千万円(76社)、事業実施に伴う諸収入が約4千万円、一方、支出額の内訳は、事業費が5億4千万円、広報宣伝費が1億5千万円、事務局費が7千万円となっています。

当初想定と比べて2億4千万円の差が生じたのは、協賛活動の結果、施設の無償提供や物品等の現物協賛など、現金以外での協賛が2億円相当に上ったことが最大の要因です。これらを含めた事業規模は約9億6千万円となり、ほぼ当初想定に近い事業展開を行うことができました。

● 今後に向けて

江戸開府400年記念事業の実施を通じて、江戸・東京が蓄積した歴史や文化を多くの人びとが再認識し、新たな都市文化創造へ向けて大きな第一歩を踏み出すことができました。この流れを一過性のものに終わらせることなく、将来に向けて継続・発展させていくことが重要です。

千代田区では、平成16年3月に「千代田区文化芸術基本条例」を制定し、江戸時代からの成熟した文化を基礎として、文化芸術振興施策を総合的かつ計画的に推進していくこととしました。

今後、この条例に基づく計画策定や諸施策が行われていく中で、江戸開府400年記念事業で培われた交流の輪やエネルギーが大いに活用されていくこととなります。

好評発売中！

● お問合せ・お求めは… (財)千代田区コミュニティ振興公社

〒102-0074 千代田区九段南1-6-17 千代田会館2階 ☎03-5275-0123 江戸net: <http://edo400.net>



江戸開府400年記念切手

江戸開府400年を記念して日本郵政公社が発行した記念切手にオリジナル台紙を付けました。
体裁：1シート=80円切手10枚(切手デザインは、5種類)、台紙付き
①江戸四屏風②江戸城本丸等障壁画絵様③花色日の丸威胴丸具足④初音繪紙硯箱⑤能面「中将」及び紅地雷文・四ツ花菱文厚板
価格：800円(税込み)



大江戸透絵図～千代田から江戸が見える～

第1部：今に生きる江戸文化400年(カラー117ページ)
江戸から現代までの産業や交通、文化、風俗などを解説。
第2部：千代田区町名由来事典(白黒107ページ)
千代田区の町名の由来を解説。
付録：古地図と現在の地図を重ねて見ることができるCD-ROM
体裁：B5判全224ページ
価格：2,800円(税込み)

DVD「江戸天下祭 山車・神輿順行の記録」

江戸天下祭のハイライト「山車・神輿順行」の映像記録。
収録時間：36分
価格：1,000円(税込み)



千代田区江戸開府400年記念事業 公式記録

一年間にわたって実施された「記念事業」の全記録をまとめた冊子。
体裁：A4判全128ページ
価格：1,200円(税込み)

